

東大阪市

---

男 女 共 同 参 画

に 関 する

市 民 意 識 調 査

の 結 果 報 告 書

---

平成 31 年(2019 年)3 月

東大阪市



## はじめに

本市では社会を構成するすべての人々が性別に関係なく対等な一員として認め合い、仕事、家庭、地域など、あらゆる分野において平等に参画する機会を有し、喜びも責任もわかちあう男女共同参画社会の実現をめざして、平成23年（2011年）に「第3次東大阪市男女共同参画推進計画～東大阪 みらい <sup>はばたき</sup> プラン～」を策定しました。

この計画は本市の男女共同参画施策の指針を示すものであり、現プランが2020年度に目標年度とする長期の計画であることから、実行性を保つため、平成28年（2016年）に一部改定を行ったところです。

社会経済動向の変化や女性活躍推進法が施行された社会の実態などを踏まえ、新たに「第4次東大阪市男女共同参画推進計画」の策定を進めるにあたり、その基礎資料とするため、市民意識調査を実施いたしました。

今回の調査から見えてきた本市の特性や市民ニーズ、新たな課題を考慮し、市民の皆様の声を十分に反映したより効果的な計画となるよう努めてまいります。

最後になりましたが、本調査にご協力していただきました市民の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも男女共同参画社会の実現に向け、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年（2019年）3月

東大阪市長 野 田 義 和

# 目 次

## I 調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査概要	1
3 この報告書の見方	1
4 調査結果の要約	3

## II 調査結果

あなたやご家族のことについて	7
仕事と生活の調和について	28
子どもの育て方や教育について	41
暮らしの悩みなどについて	53
メディアの表現などについて	71
性のあり方について	79
配偶者や恋人間の暴力について	85
男女共同参画社会の形成について	90

## III まとめと検討課題

男女共同参画に向けた意識形成	117
あらゆる人々が共に活躍できる環境づくり	118
男女が共に自立し、安心して暮らせる生活支援	119
あらゆる暴力の根絶	119

## 調査票

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

本市の男女共同参画施策の指針を示す「第3次東大阪市男女共同参画推進計画（東大阪みらいはばたきプラン）」は、2020年度にその目標年度に達するため、社会情勢の変化に対応し、また地域に根ざしたものになるよう、新たなプラン策定のための基礎資料を得ることを目的として本調査を実施しました。

## 2. 調査概要

調査対象：18歳以上の市内在住者3,000人を住民基本台帳より無作為抽出

調査期間：平成30年（2018年）7月26日～9月3日

調査方法：郵送による配布・回収

調査内容：

あなたやご家族のことについて（13問）

仕事と生活の調和について（5問）

子どもの育て方や教育について（3問）

暮らしの悩みなどについて（8問）

メディアの表現などについて（3問）

性のあり方について（3問）

配偶者や恋人間の暴力について（3問）

男女共同参画社会の形成について（4問）

回収結果：

配布数	不着数	有効配布数	回収数	有効回収率
3,000	19	2,981	994	33.3%

## 3. この報告書の見方

- 図表中の「n」(number of case)は、質問に対する回答者の総数を示しており、これはそれぞれの回答結果の割合の分母（100%にあたる数）です。
- 回答結果の割合（%）は回答者の総数に対して、それぞれの選択肢の回答者数の割合を小数点以下第2位で四捨五入して算出しています。そのため、単数回答形式の質問の場合、合計値が100.0%にならない場合があります。
- 回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答形式の質問の場合も、回答結果の割合（%）は回答者の総数(n)に対して、それぞれの選択肢の回答者数の割合を示しています。そのため、割

合の合計が100.0%を超えることがあります。

- スペースの都合などで、選択肢の文言は、図表中では簡略化している場合があります。
- 「前回調査」とある場合は、平成26年(2014年)に実施された「東大阪市男女共同参画に関する市民意識調査」の結果です。

「大阪府調査」とある場合は、平成26年(2014年)に実施された「男女共同参画にかかる府民意識調査」の結果です。

「内閣府調査①」とある場合は、平成26年(2014年)に実施された「女性の活躍推進に関する世論調査」の結果です。

「内閣府調査②」とある場合は、平成21年(2009年)に実施された「男女のライフスタイルに関する意識調査」の結果です。

### サンプリング誤差について

集計で得られた回答の割合p(%)には、pと、そのサンプル数(下表のn)によって、異なる誤差が発生します。このサンプリング誤差は次表の通りです。(信頼度95%)

nが大きいほど誤差は小さく、nが小さいほど誤差は大きくなります。nが小さい場合は集計結果の数字に注意を払う必要があります。

#### ●サンプリング誤差

サンプリング誤差の単位は%

	p(%)→ n(サンプル数)↓	1	10	20	30	40	50
		99	90	80	70	60	50
総数(全体)	994	0.6	1.9	2.5	2.9	3.1	3.2
女性	579	0.8	2.5	3.3	3.8	4.1	4.2
男性	409	1.0	3.0	4.0	4.5	4.8	4.9
女性30歳未満	53	2.7	8.2	11.0	12.6	13.5	13.7
女性30歳代	72	2.3	7.1	9.4	10.8	11.5	11.8
女性40歳代	105	1.9	5.9	7.8	8.9	9.6	9.8
女性50歳代	110	1.9	5.7	7.6	8.7	9.3	9.5
女性60歳代	111	1.9	5.7	7.6	8.7	9.3	9.5
女性70歳以上	127	1.8	5.3	7.1	8.1	8.7	8.9
男性30歳未満	38	3.2	9.7	13.0	14.9	15.9	16.2
男性30歳代	44	3.0	9.0	12.1	13.8	14.8	15.1
男性40歳代	57	2.6	7.9	10.6	12.1	13.0	13.2
男性50歳代	74	2.3	7.0	9.3	10.7	11.4	11.6
男性60歳代	107	1.9	5.8	7.7	8.9	9.5	9.7
男性70歳以上	89	2.1	6.4	8.5	9.7	10.4	10.6

(表の見方)

- 「女性40歳代(n=105)」の回答(p)が20%(または80%)であった場合、その誤差はプラスマイナス7.8%(約8%)となっています。この場合、pの20%という回答の値は12%(20-8%)と28%(20+8%)の間を代表している数値であるということを意味しています。

#### 4. 調査結果の要約

あなたやご家族のことについて（13問：うち、主な設問を表示）	
仕事でストレスを感じているか(問8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ストレスを強く感じる」とする割合が高いのは、(4)収入が少ない、(1)上司や部下、同僚との人間関係の悩み、(5)不況・解雇、将来性が感じられないなど。</li> <li>ストレス強度は、男性の若い層で高い。</li> </ul>
性別による職場での対応や評価(問9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの項目で「男性の方が優遇されている」(男性優遇)の割合が「女性の方が優遇されている」を上回る。</li> <li>女性が、男性優遇を強くあげる項目は、(8)管理職への登用、(6)昇進・昇格、(7)能力評価、(5)賃金。</li> </ul>
仕事をしていない理由(問10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>最も多いのは、女性では「家事や子育てをしている」、男性では「定年退職した」。</li> </ul>
今後、仕事につきたいか(問11)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「仕事につきたいと思わない」が38.6%で、特に定年退職者が多い男性で高い。</li> </ul>
今後、仕事につく上で困ったことや不安(問12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「年齢制限」「自分の健康状態や体力」が多く、特に女性では「自分の健康状態や体力」のほか、「家事、子育て、介護との両立ができるか」の割合が比較的高い。</li> </ul>
女性の生き方(問13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>望ましいのは「結婚・出産で退職、余裕ができたなら再就職」次いで「結婚・出産で育児休業、その後に職場復帰」。実際は「結婚・出産で退職、余裕ができたなら再就職」次いで「子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける」。</li> <li>望ましい生き方と実際の生き方との関係は、多くの選択肢でギャップがあり、望ましい生き方が叶えられていない傾向が強い。</li> </ul>
仕事と生活の調和（5問）	
希望する時間の使い方ができているか(問14)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「できている」「どちらかといえば、できている」の合計は54.8%。</li> <li>「できていない」が最も多いのは男性50歳代。男女の若い層では「できている」の割合が高い。</li> </ul>
時間の使い方(問15)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「時間を取り過ぎている」の割合が高い項目は、(4)仕事。「時間を取れていない」は、(6)趣味・娯楽活動、(2)睡眠・休養、(8)友人・交際相手・同僚などとのコミュニケーションで高い。</li> <li>(4)仕事では男性50歳代・30歳代で、時間の不足感が強い。</li> </ul>
平日の家事・育児・介護の使用時間(問16)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)家事については、女性の30歳以上で一日に約4時間を使用。(2)育児では女性の40歳代までは4時間以上、(3)介護では男女70歳以上で6時間以上。</li> </ul>
生活での優先(問17)	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望では、家庭生活&gt;個人生活&gt;仕事の順、現状は、仕事&gt;家庭生活&gt;個人生活で、仕事が最優先されている。</li> <li>特に男性30歳代~50歳代において、仕事のウェイトがたいへん高い。</li> </ul>
仕事と生活の調和のために必要なこと(問18)	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て・福祉の充実、家族の理解、就業やその環境の整備などが上位。</li> </ul>

子どもの育て方や教育（3問）	
子どもの育て方(問 19)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「そう思う」の割合は、(4)子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい、が最も高く、女性が男性を上回る。また高齢層ほど高くなる。第2位は(2)妻や子どもを養うのは、男性の責任である、で、男性の各世代で高い。</li> </ul>
男女の子どもに身につけてほしいこと(問 20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「必ず身につけるべきだ」とする割合の上位3項目は、①女の子の場合、(5)自立心&gt;(2)家事・育児の能力&gt;(3)家族や周囲の人と協調して円満に暮らす力。②男の子の場合、(1)自立できる経済力&gt;(5)自立心&gt;(3)家族や周囲の人と協調して円満に暮らす力。</li> <li>・「必ず身につけるべきだ」とする割合について、①女の子の場合と②男の子の場合の差が大きいのは、(1)自立できる経済力(②男の子が高い)、(2)家事・育児の能力(①女の子が高い)など。</li> </ul>
男女平等を進めるために小中学校で重要な取り組み(問 21)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」と「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」が過半数の支持を得ている。</li> </ul>
暮らしの悩みなど（8問）	
男女の役割を固定した考え方をどう思うか(問 22)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同感する意向は36.7%、同感しない意向は59.3%。</li> <li>・同感しない意向の割合は、女性、特に女性30歳代が最も高く、男女ともに若い世代で高い。</li> </ul>
男女の役割固定に同感する理由(問 23)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同感する意向を示す理由は「男女で違う役割を感じるから」が64.9%で最も多い。</li> </ul>
男女の役割固定に同感しない理由(問 24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同感しない意向を示す理由は「男女役割を決めるのはきゅうくつだから」が41.3%で最も多い。</li> </ul>
生活の中で感じるストレス(問 25)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ストレスを強く感じる」とする割合の順は、(1)老後の生活(経済や健康)&gt;(4)経済的なことで&gt;(6)親の介護や病気&gt;(2)配偶者やパートナー、恋人のことで&gt;(3)子どものことで。</li> <li>・(2)(5)(6)は、女性が男性より「ストレスを強く感じる」とする割合が4ポイント以上高い。ストレス強度係数で見ると、(5)家事の負担は、特に女性30歳代~50歳代で高い。</li> </ul>
地域活動への参加(問 26)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「今後も参加したい」の割合は(1)自治会・町内会の活動、(3)地域における趣味・スポーツ・学習の活動、(2)PTAや子ども会の活動が多い。</li> <li>・「今後は参加したい」の割合との合計では、(3)地域における趣味・スポーツ・学習の活動、(1)自治会・町内会の活動が40%内外を占める。</li> </ul>
地域活動に参加したくない理由(問 27)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あまり関心がないから」「人間関係がわずらわしいから」が高い。</li> </ul>
誰に介護をしてもらいたいと思うか(問 28)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性では「施設での介護」&gt;「ヘルパーなどの介護従事者」&gt;「夫」の順、男性では「妻」&gt;「施設での介護」&gt;「ヘルパーなどの介護従事者」の順であり、男女とも年齢層を通じて共通している。</li> </ul>
男性が家事などに参加するために特に必要なこと(問 29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」「夫婦の間で、家事・育児・介護などの役割分担について話し合う」が約半数。</li> <li>・「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」に対しては女性の50歳代以下の層で60%を超える。「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」は全体的には男性の支持が高い。</li> </ul>



メディアの表現（3問）	
メディアの表現をどう思うか(問 30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(5)子どもの目に触れないような配慮が足りない、について「その通りだと思う」とする割合が最も高い。</li> <li>・(1)～(5)を通じて、女性 40 歳代～60 歳代や男性 60 歳以上・30 歳未満の見方が厳しい。</li> </ul>
メディアの性の表現に問題だと考えること(問 31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「性的な表現に青少年が容易に接触できること」が過半数で、「女性を視覚的な対象物として扱っていること」、「女性を対象とする性・暴力表現がされていること」が 30% 以上の支持を得ている。</li> </ul>
メディアの性表現を制限するのによいと思う方法(問 32)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「インターネットにアクセスするためのサービスを提供している接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限する」が過半数で、女性の支持が高い。</li> </ul>
性のあり方（3問）	
ダイバーシティを知っていたか(問 33)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「言葉もその意味も知っていた」とする割合は 11.4% で、男性が高い。</li> </ul>
特に尊重すべき多様性(問 34)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ライフスタイルや価値観・考えかたの多様性」が 70% 近い。以下は「障害の有無など身体的・精神的な特性の多様性」「セクシュアリティ（性別、性的指向）の多様性」など。</li> <li>・「障害の有無など身体的・精神的な特性の多様性」「セクシュアリティ（性別、性的指向）の多様性」への支持は、女性で高い。</li> </ul>
性的少数者の困難を解決するために必要なこと(問 35)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「性の多様性についての学校教育を充実する」「性的少数者の困難の実態を知らせ、それらに対する社会の課題を啓発する」「(婚姻に準ずる) 同性パートナーシップ制度などを導入する」がいずれも 30% 台。</li> <li>・「同性パートナーシップ制度などを導入する」は女性の 30 歳未満・30 歳代で過半数の支持を得ている。</li> </ul>
配偶者や恋人間の暴力（3問）	
DV をした／された経験(問 36)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性において〈(何度も/1 2 度) されたことがある〉とする割合が高く、男性において〈(何度も/1 2 度) したことがある〉とする割合が高い。</li> <li>・女性で〈されたことがある〉とする割合が高いのは、(12)大声でどなったり、物を壊したりする、(11)「誰のおかげで生活できるんだ」「食わせてやっている」と言う、(1)平手で打つ、が 10% 以上。</li> </ul>
DV をされた後、どうしたか(問 37)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った」が 43.2% で、「友人・知人に相談した」(20.5%)、「親や兄弟姉妹、親類に相談した」(19.7%)が続く。</li> <li>・「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」も 23.5% で高い。</li> </ul>
DV をされてどこにも相談しなかった理由(問 38)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上位は「相談しても無駄だと思った」(43.4%)、「自分さえ我慢すればやっていけると思った」(43.4%)、「相談するほどの事ではないと思った」(32.1%)など。</li> <li>・女性では「恥ずかしくて誰にも言えなかった」も高い。</li> </ul>

### 男女共同参画社会の形成（4問）

<p>社会の各分野における男女の平等感(問 39)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(1)～(9)のすべてで「男性が優遇されている」の割合が「女性が優遇されている」の割合を上回っている。「男性が優遇されている」の割合の高い順は、(3)職場（賃金や待遇など）では&gt;(8)政治・経済活動への参加では&gt;(9)社会全体からみて&gt;(2)雇用の機会や働く分野では&gt;(6)社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）など。</li> <li>・(1)学校教育の場では、を除く8分野すべてで、女性の方が「男性が優遇されている」の割合が高い。</li> <li>・「男性が優遇されている」の割合が最も高い、(3)職場（賃金や待遇など）では、については、女性40歳代・30歳代・60歳代が特に高い。</li> <li>・男性30歳未満では「女性優遇」の見方が強い項目がいくつかある。</li> </ul>
<p>市における女性のための取り組みを知っているか(問 40)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「利用したことがある」「知っているが利用したことはない」「聞いたことがある」の合計値では、(2)安心して出産にのぞむための検診・相談、(4)女性のための悩みや不安(DVを含む)に対する相談、(1)食生活や健康づくりに関する情報提供が30%以上。</li> </ul>
<p>男女共同参画社会推進のために参加したい活動(問 41)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」「多様な文化や生活習慣に関する理解を深めるための国際交流の場に参加する」「子育て支援に関する活動に参加する」など5選択肢が10%台で、高い。</li> <li>・上記の3選択肢は、女性30歳未満・30歳代で特に高い。</li> </ul>
<p>男女共同参画に関わる用語などを知っているか(問 42)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よく知っている」とする割合の高い項目は、(4)男女雇用機会均等法、(8)ストーカー行為規制法、(9)DV防止法、(6)育児・介護休業法、(13)ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）で、いずれも10%台。</li> <li>・「知らない」とする割合が高いのは、(14)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）、(11)ポジティブ・アクション（積極的改善措置）、(1)東大阪市男女共同参画推進計画～東大阪 みらい 翔プラン～、(2)東大阪市男女共同参画推進条例などで、これらは「知らない」が70%以上。</li> <li>・主な項目では、女性の30歳未満・30歳代でよく知られ、男性の30歳代・40歳代で周知度が低い傾向がみられる。</li> </ul>